

言語文化学科

中国語中国文学 コース

中国語中国文学コース とは

中国語中国文学コースでは、中国文化論、中国語学、中国文学を研究対象としています。研究対象とする「中国」は、中国大陸のみならず、台湾、香港、東南アジアを含む華人世界など、広く中華圏を指します。文化論の分野では、映画などの表象芸術を中心とした研究を行っています。語学分野は、古代から現代に至る中国語の歴史的な展開を、文法、音韻、文字の側面から多角的に研究しています。文学分野では、唐代に活躍した詩人について、作品を通して作者と対話しつつ当時の社会や風俗、文化、政治ともからめてその文学と人生を研究しています。ネイティブ教員による授業も行われ、留学生も多数在籍しており、中国文化を身近に感じながら勉強することができます。

先生の研究

中国古代字書を主な資料として利用し、中国字書編纂史および漢音韻史の観点から研究を行っています。これまでに『泰和新五音改併類聚四聲篇』（一一〇八）や『新修累音引證群籍玉篇』（一一八八）といった金代（一一一五―一二三四）に登場した資料が字書史上に果たした役割や意義、また『改併五音集韻』（一二二二）や『皇極経世解起数訣声音韻譜』（一二四一）などの資料よりうかがえる金・南宋・元の時代の言語音体系といったテーマで研究を行ってきました。近年は毛利貞齋『増補大廣益會玉篇大全』（一六九一）やミゲル・ロカ（一六六一―一七五七）の『漢西字典』、アウグスティン・ゴンサレス（一八七二―一九二〇）の『官話撮要』といった、本邦や欧州の字書・文法書を対象として、言語接触や中国理解の諸相に関する研究も進めています。



教授 おおいわもと こうじ
大岩本 幸次 先生

学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ
もともと別の学科・コースに所属していたが、大学生活を送っているうちに、「希望していたコースは自分が思っていたものとは少し違うな」と感じ、どのコースに進むか考えたとき、大好きな飛鳥時代、特に遣隋使小野妹子について大学生生活で学びたいと考え、古代の中国のことを学ぶことのできる中国語中国文学コースに決めました。

○自身の興味
中国語中国文学コースには中国人の先生や留学生の方が多数在籍されているので、今の中国の文化や暮らしについてみたいとわからない常識や伝統など、たくさん教えていただきたいです。また、コースの人数が比較的少ないので、より自分に合った指導を受けられるのではないかと楽しみです。

○楽しみにしている授業について
私が楽しみにしているのは、古代中国の文学について学べる授業です。私の好きな飛鳥時代の人々と同じように例えば漢の時代の文学を学べたら、生きている時代は違いますが同じものを学んだという共通点ができてすごく嬉しいです。



2回生 いのうえ たまの
井上 碧乃 さん

教員紹介

張新民 教授 Shinmin Cho
現代中国文化論及び映画研究
共著『中国映画のみかた』（大修館、2010）

大岩本 幸次 教授 Koji Oiwamoto
中国語音韻史、中国古文字書史
『金代字書の研究』（東北大学出版会、2007）

高橋 未来 准教授 Miki Takahashi
中国古典文学
著書『杜牧研究―杜牧における政治と文学―』（東京学芸大学出版会、2016）
論文「杜牧「山行」詩の「坐」について」『茨城女子短期大学紀要』第46集、2019）

卒論タイトル例

- ・陸遊の人間像に関する一考察 ―夢の詩を手掛かりに―
- ・マンガ『ドラえもん』における擬態語の中国語翻訳について
- ・現代中国における父親の育児観

中国語中国文学コース オススメ入門書

・『現代中国文芸アンソロジー―火種―』（凱風社）
【著者】ジェレミー・バーナー編（刈間文俊編訳）

【紹介】
内容は小説・映画・絵画など多岐にわたり、分厚い本だが飽きることはない。少し古い印象も受けるが、本書にみえる中国知識人の苦悩・葛藤の言説に触れることが、当時やその後の中国を知る一つの足がかりにもなると思う。

・『音韻論の原理』（岩波書店）

【著者】ニコライ・S・トゥルベツコイ（長嶋善郎訳）

【紹介】
学生が少ないからという理由で音韻のゼミに通っていた学部の人に図書館でふと手にした書。読むうちに音韻論とは何と面白い考え方かと目から鱗が落ちる気がした。これを契機に他の関連書も読むようになり、勉強を続けていく決心が固まった。

・『漢詩のレッスン』（岩波ジュニア新書）
【著者】川合康三

【紹介】
一つの繭から次々と糸が繰り出されるように、絶句というたった四行の漢詩に込められた豊かな意味を引き出してみせてくれる。漢詩の歴史など基礎知識もわかりやすく解説されている。